

松の記憶

布宮慈子^{やすこ}

ひそやかにトトロの帽子と名づけたる大きい二本の木がなくなりぬ

近隣のアパートの隅にありし木は檜葉だつたらうか切り株残る

電線の邪魔になるほど高くなりその木は根元から伐られたり

ヤマさんの住んでゐたころ手入れする牡丹は大輪の花を咲かせき

ヤマさんが引越してのち伐られたり玄関の植込みに牡丹なき鬱

長いこと重機の音す家壊しある朝つひに松の木伐らる

大木は羽州街道を見続けてきたはず松の記憶は永遠

松の木がなくなり隣地は均されて駐車場となる 記憶の上に

にんげんは都合によつて大木の松も切り倒すちからを持てり

雪少な雪少なとてたまに降る雪はうつくしすべてを覆ふ